

今日の説教のポイント<使徒言行録3章1~10節>

聖霊降臨後の出来事の意味をペトロの（説教→奇跡→説教）から追う。

①「見る」から「見つめる」への変化に注目！

生まれつき足が不自由だった男の人がペトロによって癒された話です。この出来事を記したルカは明らかに「見る」ことに注目して報告しています。何となく「見て」いた男。その男を「じっと見て」、私たちを「見なさい」と呼びかけたペトロ。それで何かもらえると思って「見つめ」直した男。そして奇跡は起こるのです。ルカは「理由は何であれ、真剣に見つめることから信仰の道は開かれるのだ」ということを伝えたかったのでしょう。問題は、見つめてそこに何を見出すか、です。

②ペトロがその後語った説教に注目！

この奇跡に人々は驚きました。しかし、その人々が「見つめる」方向は間違っていました。ペトロがこう言っているからです。「わたしたちがまるで自分の力や信心によって、この人を歩かせたかのように、なぜ、わたしたちを見つめるのですか」(12)。人々は、奇跡を起こしたペトロを見つめるにとどまったのです。しかし、ペトロはそれは違うと言っているのです。では、この奇跡を見つめて、何を見出さなければならないのでしょうか？ ペトロがこれに続いて話したことは、見つめるべきは神様であること、すなわち、神様がこの奇跡を起こされた方であるということ。その神様がイエス・キリストをお送り下さったこと、それをこの男の人が信じたから癒されたのだ、ということなのです(13節以下)。

③ペトロが持っているもの、イエス・キリストに注目！ それで十分！

「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう」(6)、印象的、しかも力強い言葉です。こう言うペトロが持っているもの、「この方の中に私はいるから、何も恐れるものはないのだ」と言っているその方、それこそが主イエス・キリストなのです！ 「わたしは弱いときにこそ強い」(Ⅱコリント12:10)、「誇る者は主を誇れ(自分でなく)」(Ⅰコリント1:31)。こう言える時、奇跡はもういらなくなるのです！